

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成 23 年 4 月 22 日

財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事業区分	平成 22 年度・大学全体計画事業助成			
事業名	国際大学連合 (APRU・AEARU) 事業への参画			
成果の概要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有(2010年度事業参加者一覧)			
会計報告	事業に要した経費総額	8,403,000円		
	うち当財団からの助成額	5,200,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都大学 大学運営費		
	経費の内訳と助成金の用途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	[APRU] 渡航費・滞在費	1,920,000	970,000	
	[AEARU] 渡航費・滞在費	850,000	250,000	
	国内交通費・滞在費	43,000	0	
	[APRU リサーチシンポジウム]			
	招へい旅費	1,000,000	810,000	
	会場費	640,000	640,000	
	印刷費	500,000	450,000	
	消耗品費	200,000	50,000	
	その他(看板代等)	330,000	330,000	
	[AEARU ワークショップ]			
招へい旅費	1,890,000	1,110,000		
会場費	250,000	150,000		
印刷費	450,000	340,000		
その他(看板代等)	330,000	100,000		
合 計	8,403,000	5,200,000		

## AEARU 2010(平成22)年事業一覧

### AEARU Annual General Meeting (AEARU年次総会)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第16回	2010.10.27-29	清華大学	森 純一	国際交流推進機構長	
			戸倉 照雄	部長	国際部
第27回理事会と同時開催			Ainslie KERR	特定職員	国際部
			木戸場大輔	専門職員	国際部
			伊藤 朱子	一般職員	国際部

### AEARU Board of Directors Meeting (AEARU理事会)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第26回	2010.5.13-14	大阪大学	松本 紘	総長	
			森 純一	国際交流推進機構長	
			戸倉 照雄	部長	国際部
			Ainslie KERR	特定職員	国際部

### AEARU Workshop on Advanced Materials Research (AEARU先端材料科学ワークショップ)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第4回	2010.8.29-9.3	筑波大学	吉村 成弘	准教授	生命科学研究所

### AEARU Workshop on Web Technology and Computer Science (AEARUウェブ技術・コンピュータ科学ワークショップ)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第9回	2011.1.17-18	京都大学	参加者数112名、うち京大からの参加は60名 (学内準備委員は以下の3名(事務部の除く))		
			中村佳正	教授	情報学研究科
			田中克己	教授	情報学研究科
			大島裕明	特定助教	情報学研究科

### AEARU Student Summer Camp (AEARU学生サマーキャンプ)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
2010 第24回理事会で、ジェネラル とトピカルを区別せずに開催す ることで合意	2010.8.16-20	浦項工科大学	渡邊 裕二	4年	総合人間学部
			水村 沙英	2年	法学部

## APRU 2010(平成22)年事業一覧

### APRU Annual Presidents Meeting (APRU年次学長会議)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第14回	2010.6.30-7.2	オークランド大学	森 純一	国際交流推進機構長	
			竹安 邦夫	国際大学連合小委員長	生命科学研究科
			戸倉 照雄	国際部長	
			エイズリー・ケアー	国際交流課特定職員	
			西川 美香子	国際交流センター-G30特定助教	国際交流センター

### APRU Senior Staff Meeting (APRUシニアスタッフミーティング)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第6回	2011.3.9-11	チュランロンコン大学	森 純一	国際交流推進機構長	
			竹安 邦夫	教授	生命科学研究科

### APRU Research Symposium on Brain and Mind (APRU Brain & Mind リサーチシンポジウム)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第3回	2010.8.23-25	ソウル国立大学	田中 暢明	特定研究員	生命科学系キャリアパス形成ユニット

### APRU Doctral Students Conference (APRU博士課程学生会議)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第11回	2010.7.12-18 (16,17はオプションツアー)	インドネシア大学	青山 秀紀	D3	工学研究科
			北村 恭子	D3	工学研究科

### APRU/AEARU Research Symposium "Earthquake Hazards around the Pacific Rim"

#### (APRU/AEARUリサーチシンポジウム「環太平洋地震災害に備える」)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第6回	2010.8.27-29	北京大学	モリ・ジェームズ・ジロウ	教授	防災研究所

### APRU Undergraduate Summer Program (APRU学部学生サマープログラム)

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第5回	2010.7.6-16	国立シンガポール大学	生津 路子	学部4年生	工学部
			栗林 史子	学部3年生	法学部

### APRU Steering Com. Meeting

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第3回	2010.1.28	APRU事務局(電話会議)	欠席		
第4回	2010.5.6	APRU事務局(電話会議)	欠席		
第5回	2010.8.19	APRU事務局(電話会議)	松本 紘	総長	
第6回	2010.10.29	APRU事務局(電話会議)	欠席		
第7回	2010.11.11-12	APRU事務局(電話会議)	欠席		
第8回	2010.12.7	APRU事務局(電話会議)	松本 紘	総長	
第9回	2011.3.16	APRU事務局(電話会議)	松本 紘	総長	

### APRU Research Symposium - Interface between Molecular Biology and Nano-Biology -

会議名	期間	主催大学	参加者氏名	職名	所属
第1回	2010.11.24-26	京都大学	参加者数178名、うち京大からの参加は145名 (学内準備委員は以下の12名(事務部除く))		
			米原伸	教授	生命科学研究科
			竹安邦夫	教授	生命科学研究科
			石川冬木	教授	生命科学研究科
			上村 匡	教授	生命科学研究科
			西田栄介	教授	生命科学研究科
			荒木 崇	教授	生命科学研究科
			松田道行	教授	生命科学研究科
			楠見明弘	教授	物質 - 細胞統合システム拠点
			原田慶恵	教授	物質 - 細胞統合システム拠点
			見学美根子	准教授	物質 - 細胞統合システム拠点
			吉村成弘	准教授	生命科学研究科
			森純一	教授	国際交流推進機構長

## 成 果 の 概 要

京都大学総長 松本 紘

### 【国際大学連合（APRU・AEARU）への参画】

京都大学はアジア・太平洋地域の主要な大学の連合組織である APRU（環太平洋大学協会）及び東アジア地域の研究型大学の集まりである AEARU（東アジア研究型大学協会）の事業に積極的に参加することで、本学の研究の進展やプレゼンスを高めています。APRU は、環太平洋地域にとって重要な諸問題に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的とし、環太平洋圏の主要大学の学長によって構成され、環太平洋地域社会の発展にとって、効果的な役割を果たしており、本学は、本協会設立メンバーです。AEARU は、東アジア（日本、中国、韓国、香港、台湾）の優れた研究型大学により構成されており、本学は 2004 年から理事校となり、2008 年 1 月から 2 年間は本学総長が AEARU 理事会議長として、域内の学術交流を積極的に推進してきました。

平成 22 年度においては、APRU / AEARU 両組織における事業に本学の研究者及び大学院生を派遣するとともに、本学主催による APRU Research Symposium、AEARU Web Technology Workshop を開催するなど、積極的な学術交流を行いました。これら事業の参加者は、彼らの研究活動の幅を広げ、今後の研究の発展に寄与するものと思われま

す。来年度も、本学の国際戦略の一環として APRU 及び AEARU 事業に参画する学生や若手研究者の積極的な派遣および APRU / AEARU 事業の本学主催の国際会議開催に貢献していきたいと考えております。

以下、本学主催による APRU Research Symposium および AEARU Web Technology Workshop の概要を報告します。

\*\*\*\*\*

### APRU Research Symposium

APRU は、環太平洋圏の 16 カ国・地域 42 大学の加盟校からなる世界有数の大学連合で、年間を通じて世界各地の加盟校で様々な分野の会議やシンポジウムを開催しています。本学はこのたび、大学院生命科学研究科と物質 - 細胞統合システム拠点 (iCeMS)

が中心となって、新たなリサーチ・シンポジウムである Interface between Molecular Biology and Nano-Biology を開催しました。

2010年11月24日(水曜日)～26日(金曜日)の3日間、9カ国から178名の研究者・学生が集い、それぞれの研究について発表、意見交換を行いました。今回のシンポジウムは、分子生物学とナノバイオロジーという二つの領域をつなぎ合わせ、相互に発展させることを目的としており、生命科学の分野が今後ますます重要性を増していくうえで貴重な役割を果たしたと言えます。

シンポジウムは松本 紘 総長の挨拶、白川昌宏 大学院工学研究科教授による「Structural biology of epigenetic regulations and NMR observation of proteins in eukaryotic cells」と題する基調講演で幕を開け、初日の午後から最終日の午前まで、六つのトピックをテーマに研究発表が行われました。著名な研究者が一堂に会する会場では、熱心にメモを取る様子があちこちで見られ、発表の後には活発な質疑応答が行われました。

また、二日目の午後に行った芝蘭会館山内ホールでのポスターセッションでは、和やかな雰囲気の中、各ポスターの前では様々な意見交換が続き、予定していた1時間半では短いと思われるほどの盛況となりました。本学の学生も多くのポスター発表を行い、英語での質疑応答などスキルアップのよい機会となったほか、本学の研究を海外に向けて発信する場ともなりました。

シンポジウムは三日目の正午、盛況のうちに幕を閉じ、有志で二条城へのエクスカッションに参加しました。紅葉が見ごろを迎えた庭園は晴天に恵まれ、参加者にとって忘れられない一場面となりました。

この会議では、3日間にわたり分子生物学とナノバイオロジー分野における各国の多くの若手研究者が交わることにより、研究・文化の交流をより深めることができ、非常に意義のあるものとなりました。参加者の今後の研究活動にも大いに活かされることが期待されます。

#### AEARU Web Technology Workshop

AEARU (Association of East Asian Research Universities : 東アジア研究型大学協会) は、東アジア地域を代表する大学連合で、日本・韓国・中国・香港・台湾の5つの国・地域から17の大学が参加しており、年間を通じて各地の加盟校で様々な分野の会議やシンポジウムを開催しています。本学はこのたび、大学院情報学研究科が中心となり、京都大学百周年時計台記念館にて第9回 AEARU Web Technology and Computer Science

Workshop を開催しました。このワークショップは、1998 年に京都大学で第 1 回が開催されてから定期的に行われてきた、AEARU の中心イベントの一つです。

今回のワークショップは、2011 年 1 月 17 日（月曜日）・18 日（火曜日）の 2 日間に亘って行い、6 カ国・地域から 34 名の研究者・学生がスピーカーとして参加し、それぞれの研究について発表、意見交換を行いました。東アジア地域におけるクラウドコンピューティングの現状を知る絶好の機会となった本ワークショップは、基調講演、4 つのトピックをテーマにした研究発表の他、博士課程学生によるラウンドテーブルといった多彩な内容が盛り込まれ、他大学の研究者、企業関係者からも数多くの参加者を得ました。全体の参加者数は 112 名に上り、会場となった国際交流ホールは大変な盛況となりました。

松本 紘 総長、中村佳正 大学院情報学研究科長の挨拶で幕を開けたワークショップは、終始活気にあふれた雰囲気、基調講演や各研究発表後には多くの質疑応答があり、休憩の間にも議論を行う様子があちこちで見られました。1 日目の午後に行った博士課程学生によるラウンドテーブルでは、合計 12 名の学生が 2 つの会場に分かれてそれぞれ自分の研究について発表し、同世代の学生が多く集まった会場は大いに盛り上がりました。

\*\*\*\*\*

最後になりましたが、京都大学教育研究振興財団事業の助成を受けたことにより、多数の研究者・学生を海外へ派遣し、また国際会議を開催することができました。ここに篤くお礼申し上げます。